

考えを出し合い栽培活動を進める 刈谷市立双葉保育園（愛知県刈谷市）

【5歳児】

子どもたちが自然に親しむ中で不思議さや美しさを体験し、感動する心が育まれるような継続的实践として、ヘチマ・スイカ・ゴーヤなどの栽培を行った。その中で、5歳児が課題に向かい話し合っ活動を進めた2事例を紹介する。

事例1 抜かれた苗に対して、みんなで考えを出し合う	
子ども・保育者の行動や言葉	保育者の思い
<p>子ども：「先生、大変だよ。ヘチマの苗がないよ」とヘチマの芽が抜かれていることを見付け、保育者に言ってきた。</p> <p>保育者：「なんで抜かれちゃったんだろうね」</p> <p>子ども：「きっと知らんで抜いちゃったんじゃない」</p> <p>保育者：「そうか。小さい子たちはヘチマの芽だっことがわかんないんだよね。どうしたらいいと思う？」</p> <p>子ども：「じゃあ分かるように看板を作ればいいじゃん」</p> <p>子ども：「ねえ、ゴーヤとアサガオとフウセンカズラも作ろう」</p> <p>子ども：「うん、いいよ」</p> <p>子どもたちは黙々とゴーヤ等の看板作りをする。</p> <p>保育者：「看板の字だけど小さい子分かるかな？」</p> <p>子ども：「じゃあ、絵も描けばいいじゃん。でもどんなのかわかんね」</p> <p>保育者：「本があるから調べてみる？」</p> <p>子ども：「うん」と言って本を見ながら絵を書き始めた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・悪気があって抜いたわけではないと思う子どもの気持ちが嬉しいな。 ・子どもなりに対策を考えることで、更に関心をもって欲しいな。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで調べてみることで、より“どうなってるかな”と探ろうとする気持ちがもてるとうい。
考 察	<p>小さい子たちが苗を抜いたことで、「こうしたらいい」「こう知らせよう」とみんなで話し合いをすることで、小さい子たちへのいたわりや思いやりの気持ちをもたせることができたと思われる。</p>
事例2 スイカが被害にあったことから考えを出し合う	
子ども・保育者の行動や言葉	保育者の思い
<p>子ども：「先生畑のスイカが割れて腐っていた」</p> <p>子どもの発見を聞いて、畑にそのスイカを取りに行き、園に持ってくる。</p> <p>保育者：「カラスに食べられたんだけどこのままでいいかな」とこれからどうしたらよいか聞く。</p> <p>子ども：「田んぼでビニールのひもが張ってあるから、それをやったらいいと思うよ」</p> <p>子ども：「かかしを立てたらいいと思うよ」</p> <p>子ども：「ずっと前、ミカン畑でDVDがぶらさがっていたのを見たことがあるから、ぶらさげるといいと思うよ」</p> <p>保育者：「みんな、いい考えだね。いろいろあるけど、どれがいいかわかんないから全部やってみようか」</p> <p>子ども：「いいよ」</p> <p>保育者：「じゃあ、何で作ったらいいと思う？」</p> <p>子ども：「木で作りたい」</p> <p>保育者：「木はすぐにはないよ。どうする？」</p> <p>子ども：「じゃあ、牛乳パックで作ろうよ」と言い、すぐに作り始めた。</p> <p>子ども：「これぐらいでいいかな」と手を広げ、自分の体と同じくらいのかかしを作った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・せっかくみんなで育ててきたスイカやトウモロコシを大切に思えるとうい。 ・自分は分からなくても友達の話の聞いたりして関心をもって欲しいな。そして、自分なりにどうしたらよいか、考えて欲しいな。 ・自分で考えたことが認められることで、次への意欲にもつながると思われるので、子どもの意見は全て取り上げ、作ってみよう。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものイメージになるべく近づけたいな。

考 察	<p>カラスに食べられてしまったことで、“もう食べられたくない”という悔しいという思いから、以前よりさらに野菜に対する愛情が強くなり、野菜を育てようとする意欲が高まったと同時に協力する力が育ったと思われる。このことがかかし作りへの意欲を高めることにつながったと思われる。</p> <p>日頃、自分たちが見たことのある物が話し合いに表れたり、作ることに繋がったりすることから、子どもの観察力を強く感じた。</p>
-----	---

みどころ

栽培活動を通して、思うようにならない体験をし、簡単には解決できない問題について考えたり話し合ったりしています。このように、栽培物を細やかに観察したり、栽培物への興味や思いが深まったりすることで、意欲的に自然にかかわる活動が展開しています。

また、栽培物だけでなく、周辺の生き物やかかわっている人など、取り巻いている環境へも思いをめぐらして考え合うことができる姿から、「科学する心」の育ちが伝わってきます。